

乳製品市場「予想より早く回復」、一方で不確実性も指摘

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」9月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会の9月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では「乳製品市場は、新型コロナウイルス禍から予想以上に早く回復している」とする一方、2020年は世界の生乳供給量が拡大することから、現在の市場でのバランスは崩れやすいとも指摘した。EU27カ国の集乳量は7月までで前年同期に比べ2%増えたとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しを補った)

MMO 経済委員会の第35回会議は、下記のミルクサプライチェーンの専門家の参加を得て、ビデオ会議で2020年9月25日に開催された。

COPA-COGECA(欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)、CEJA(欧州青年農業者協議会)、EMB(欧州酪農委員会)、ECVC(ビア・カンペシーナ)、EDA(欧州乳業協会)、Eucolait(欧州乳製品輸出入・販売業者連合)、Eurocommerce(欧州商工会)。

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

27カ国の集乳量2%増

EU(27カ国)の牛乳の集乳量は、2020年7月に前年同月比2.1%(25万8000トン)増え、2020年の累積では2%(173万トン)の増となった。フランス、イタリア、アイルランドは、生産量の伸びが最も高かったと報告した。生産量が前年同月よりも低かったのは三つの加盟国だけだった(3.1%、1万9000トンの減)。2020年7月までの集乳量の増加を受け、全ての乳製品で生産量が増えることになった(全粉乳4.7%、飲用乳3.7%、チーズ2.0%、脱脂粉乳1.9%、バター1.6%)。

EUの平均庭先乳価は、7月は1キロ32.84

セントと報告された。2019年7月より2.9%低いものの、過去5年間の平均よりは4.7%高い。加盟国の2020年8月の推定によると、32.91セントとかなり安定している。

バター価格は年初の100キロ当たり368ユーロから5月10日に281ユーロに下落した後、完全に回復し、350ユーロ(25%高)に達した。1年前よりわずかに4%安い。6月初旬以降、EUの脱脂粉乳価格は100キロ当たり207~217ユーロの間で推移してきた。現在は214ユーロで、昨年水準を2%下回っている。EUのチーズ価格は昨年水準をわずかに上回って推移している。

脱脂粉乳とバターの在庫は通常レベル

乳製品のEU27カ国と英国の民間在庫水準は、残余アプローチ(生産量+輸入量-国内消費量-輸出量)に基づく評価では、脱脂粉乳は約12万トンで通常レベル。バターも、2020年7月末現在、この時期として通常レベルだった。域外への輸出増と小売りの販売が市場でのバランスを支えた。チーズの在庫は、2019年の同時期と比較してわずかに高い。夏場の外食産業の回復、強い小売り需要と輸出が続いたことで、7月に在庫量は増加しなかった。

乳製品の PSA(民間在庫補助)は次の通り: チーズ 5975 トン、バター1985 トン、脱脂粉乳 426 トンが 8 月に民間在庫から除かれた。8 月末の EU と英国の残余在庫量は次の通り: 脱脂粉乳 1 万 8120 トン、チーズ 3 万 3794 トン、バター 6 万 3691 トン。

EU だけでなく世界的にも、生乳の供給量は予想を上回った。2020 年 7 月までで、主要な輸出国・地域(EU27 カ国、英国、米国、ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン、ウルグアイ)では 2.1%の増加があり、ニュージーランド(0.1%減)と英国(0.7%減)だけがマイナスだった。オーストラリアでの良い新シーズンのスタートは、好天に恵まれたことを反映している。米国での堅調な集乳(1.8%増)と、アルゼンチンでは第 2 四半期の収益性改善による大幅な拡大(7 月に 7.6%増)があった(ただ、コスト上昇と下半期の庭先価格低下で増加率が低下する可能性がある)。

EU の短期的見通し: 乳量の増加と牛群の減少率低下により、2020 年の集乳量は 1.4%増と、引き続き堅調に推移する可能性がある。飲用乳生産の減少傾向は、新型コロナ禍で国内需要と輸出需要が増したことにより止まった。チーズの国内利用は、新型コロナの第二波の際には最も影響を受ける可能性がある。

チーズ輸出先、日本が第 2 位に

世界貿易と EU の輸出は非常に好調である。輸入の増加は、消費増または備蓄戦略とか、食料安全保障上の懸念を反映したものかもしれない。EU から日本へのチーズ輸出量は 2020 年 1~7 月に 12%増加し(FTA に基づく)、日本は米国に代わる第 2 位の輸出先になった。EU の乳製品輸出は、米ドルに対するユーロ高で、現在、より困難になっている。

EU の消費は、加工用乳製品の利用でダイ

ナミックな傾向を示している(チーズ、バター、クリームは 2009~2019 年に 3 分の 1 以上増加した)。ホエイ(栄養)、全粉乳(菓子)、脱脂粉乳など粉末乳製品の利用も増加している。市場での製品の差別化が増えている: 有機乳製品、持続可能性、牧草ベース、干し草ベース、GM(遺伝子組み換え)フリーなど。

消費期限の長い製品へシフト

新型コロナ禍に伴う食品サービス業界と学校の休止で、家庭調理用の製品の需要が増加し、フレッシュな製品から消費期限の長い製品へシフトした。一部の加盟国では、価格が消費者の選択にとって重要な要素になりつつある。有機乳製品の販売は増加を続けているが、その率は低い。

乳製品市場は新型コロナの世界的流行に対してこれまで強靱性があり、予想よりも早く回復した。2020 年に全世界の生乳供給量は拡大するため、現在の市場でのバランスは崩れやすいように見える。新型コロナの世界的流行の進展と景気後退に関連する不確実性は、消費者の行動、自信、購買力に影響を及ぼす。合意なき英国の EU 離脱は、EU と英国の間の貿易を混乱させ、牛乳乳製品の価格に圧力をかけるだろう。

参考資料:

- 1) https://ec.europa.eu/info/sites/info/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-report-2020-09-25_en_0.pdf MMO economic board meeting report - 25 September 2020 . European Commission. (2020 年 10 月 1 日 参照)

(Jミルク 国際グループ 新光一郎)